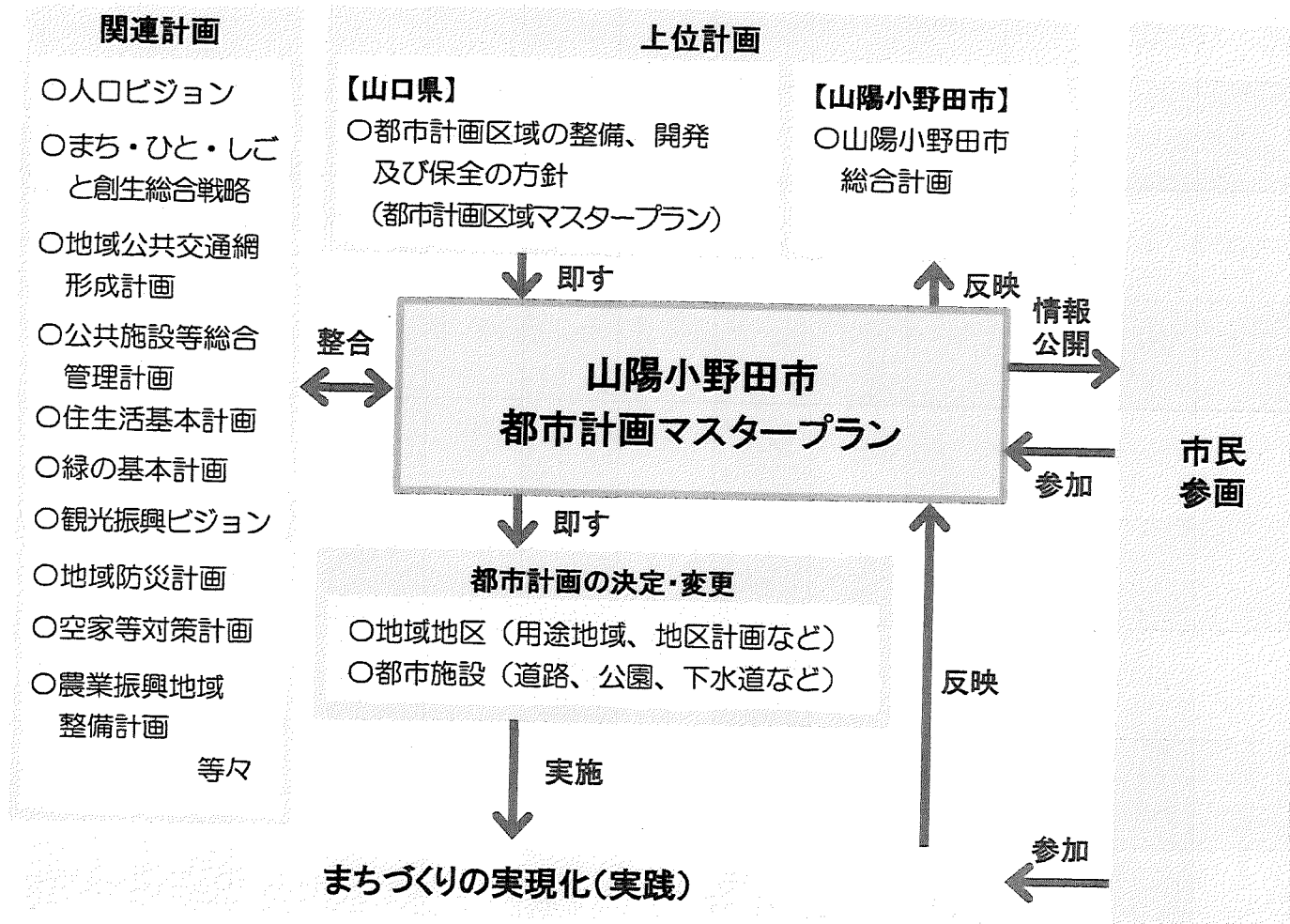


[都市計画マスタープランの位置づけ]



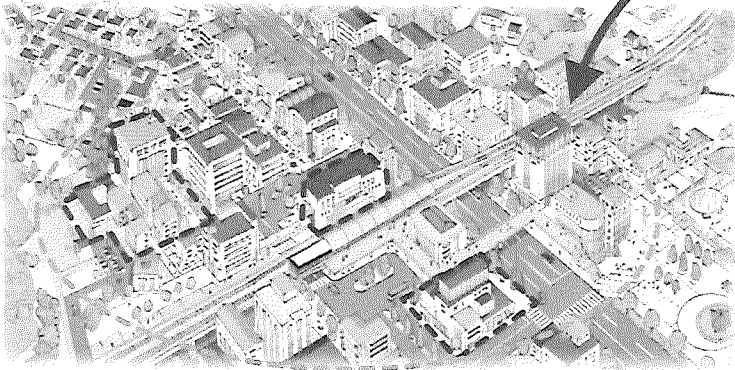
## 多極ネットワーク型コンパクトシティ

- 医療・福祉施設、商業施設や住居等がまとまって立地し、あるいは、
- 高齢者をはじめとする住民が自家用車に過度に頼ることなく公共交通により医療・福祉施設や商業施設等にアクセスできるなど、
- 日常生活に必要なサービスや行政サービスが住まいなどの身近に存在する

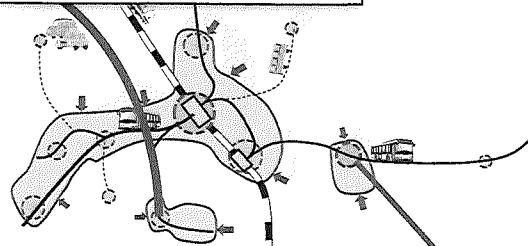
「多極ネットワーク型コンパクトシティ」を目指す。

### 生活サービス機能の計画的配置

- ・福祉・医療施設等をまちなかで計画的に配置



### 多極ネットワーク型コンパクトシティ



### 公共交通の充実

- ・交通網の再編、快適で安全な公共交通の構築、公共交通施設の充実を推進

### 人口密度の維持

- ・集落の歴史、人口の推移等を意識してまとまりのある居住を推進→利用圏人口



空き家

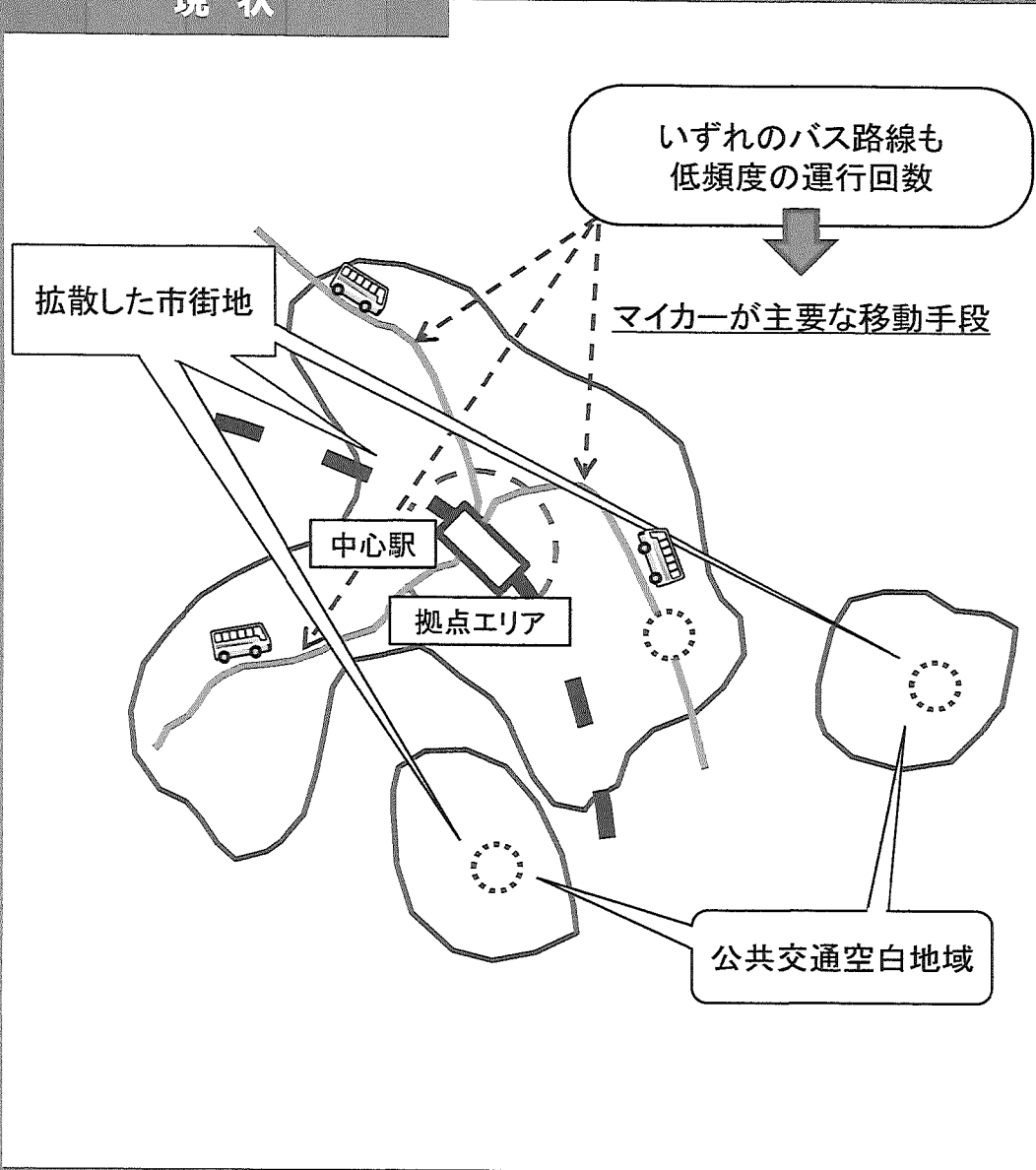
# 3. 地方都市・・・政策の方向性②

藤岡修美議員

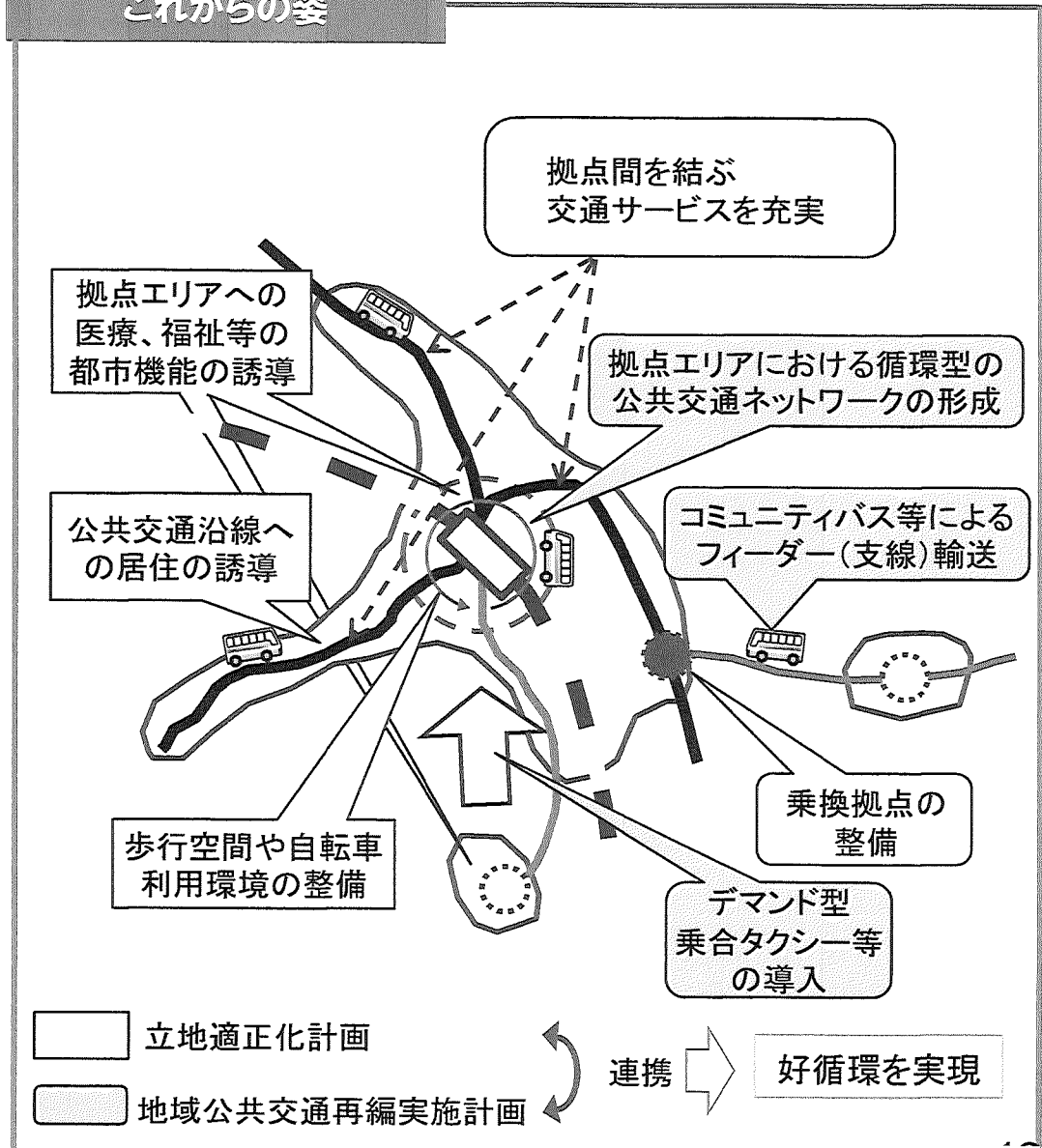
資料3

## コンパクトシティ+ネットワーク

現状



これからの姿



### 3. 地方都市・・・政策の方向性③

藤岡修美議員

資料4

#### コンパクトシティをめぐる誤解

##### 一極集中

市町村内の、最も主要な拠点(大きなターミナル駅周辺等)1カ所に、全てを集約させる

##### 多極型

中心的な拠点だけではなく、旧町村の役場周辺などの生活拠点も含めた、多極ネットワーク型のコンパクト化を目指す

##### 全ての人口の集約

全ての居住者(住宅)を一定のエリアに集約させることを目指す

##### 全ての人口の集約を図るものではない

たとえば農業等の従事者が農村部に居住することは当然。  
(集約で一定エリアの人口密度を維持)

##### 強制的な集約

居住者や住宅を強制的に短期間で移転させる

##### 誘導による集約

インセンティブを講じながら、時間をかけながら居住の集約化を推進